

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	14-005	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Effects of minimum unit pricing for alcohol on different income and socioeconomic groups: a modelling study. 年収及び社会経済要因別にみた基準飲酒量あたりの最低価格設定の影響：モデルを用いた検討		
執筆者		
Holmes J, Meng Y, Meier PS, Brennan A, Angus C, Campbell-Burton A, Guo Y, et al.		
掲載誌		
Lancet. 2014 May 10;383(9929):1655-64. doi: 10.1016/S0140-6736(13)62417-4.		
キーワード		PMID
最低価格設定、飲酒量、飲酒関連疾患、年収、社会経済的要因		24522180
要 旨		
目的： いくつかの国において基準飲酒量あたりの最低価格を設定することが検討されているが、低所得飲酒者に対する影響が危惧されている。今回、イングランド地方において、基準飲酒量（純アルコール換算 8g）あたりの最低価格を 0.45£に設定した場合の影響を年収及び社会経済的要因別に検討したので報告する。		
方法： 基準飲酒量あたりの最低価格設定の影響を検討するために、Sheffield アルコール政策モデルを用いた。Sheffield アルコール政策モデルは年収及び社会経済要因別にアルコール飲料の購買及び消費行動をモデル化したものであり、購買行動についてはアルコール飲料の種類、量、価格などに細分化された。アルコールの価格弾力性は、過去 9 年間における調査成績をもとに設定された。基準飲酒量あたりの最低価格設定が、節度ある飲酒者、危険飲酒者及び有害飲酒者において、アルコール飲料消費量、消費価格、今後 10 年間における飲酒に関連した健康障害の発生及びそれに伴う機会コストの消失に及ぼす影響を検討した。		
結果： 基準飲酒量あたりの最低価格を 0.45£に設定した場合、アルコール飲料消費量は 1.6%（飲酒者一人あたり年間 11.7 基準飲酒量）減少することが見込まれた。アルコール飲料消費量及び消費価格の変化は、節度ある飲酒者で最も少ないと推測された（低収入群において年間 3.8 基準飲酒量減少及び 0.04£増加、高収入群で 0.8 基準飲酒量及び 1.86£増加）。もっとも変化が大きいと考えられたのは、有害飲酒者においてであった（年間 138.2 基準飲酒量及び 4.01£減少）。この傾向は高所得者（年間 34.3 基準飲酒量及び 16.35£減少）に比べて、低所得者で顕著であると推測された（年間 299.8 基準飲酒量及び 34.63£減少）。基準飲酒量あたりの最低価格設定が飲酒に関連した健康障害へ及ぼす影響も社会経済的要因により異なると推測された。最も影響が大きいと考えられたのは一般職あるいは肉体労働職においてであり、飲酒に関連した健康障害による死亡が 81.8%減少し、健康寿命が 87.1%増加することが見込まれた。		
結論： 基準飲酒量あたりの最低価格を 0.45£に設定する政策の影響は、有害飲酒者において最も大きいことが見込まれた。低所得有害飲酒者は、基準飲酒量あたりの価格が低いアルコール飲料を多く購入しているので、この政策の影響を最も受けやすい。しかし、低所得有害飲酒者におけるアルコール飲料消費量の減少は、飲酒に関連した健康障害を大きく減少させる。		